



## 第36回 えり高祭

7月13日～15日の3日間にわたり、えりも高校学校祭が行われました。1日目は、体育的内容として「体育祭」が町民体育館で開催。2日目以降は、文化的 content として校内を一般開放し、クラス毎に体験型催事等を実施。町の中心部を歩いた行灯行列は、多くの町民で賑わいました。 ※写真は灯台公園で行灯を入れて写した全校生徒の集合です。

### 《目次》

- P 2 令和5年度6月定例会 補正予算、条例改正ほか
- P3～6 一般質問 5名 8件
- P 7 全道研修 札幌市「全道議員研修」  
行政視察 日高町「認定こども園 富川ひばり幼稚園」
- P 8 全員協議会
- P 9 所管事務調査
- P 10 この人に聞く 地域おこし協力隊 二場 一光 さん



# えりも町議会第2回定例会

## 補正予算

◎令和4年度  
一般会計(歳出)

・財政調整基金積立金

2億400万円

ふるさと納税寄付金等の一部を積立

・映画製作推進費

110万円

企業版ふるさと納税の寄付金を協賛負担金として製作準備委員会へ

◎令和5年度

一般会計(歳出)

・コミュニティ助成事業補助金

230万円

東洋地区の歌露和太鼓会「西風」に対する和太鼓等の購入費用の補助金(財源は全額「一般財団法人自治総合センター」より助成)

物価高騰に直面する  
事業者に  
総額6095万円  
を補助

・物価高騰重点支援事業補助金

農業振興費

560万円

林業振興費

20万円

水産業振興費

4127万円

商工振興費

1388万円

物価高騰等に直面する事業者に対する補助金

・水産業振興費

45万円

ブルーカーボンによる二酸化炭素吸収量の調査費用

・真ツブ海水冷却装置等整備事業補助金

800万円

真ツブの生態研究に必要な海水冷却装置整備事業の補助金

## 条例改正

えりも町乳幼児等医療費の助成に関する条例等の一部改正(本年8月診療分より適用)

改正内容の概要(一部抜粋)

○助成対象を「中学生」まで拡大

①医療費助成対象範囲拡大

・医療費助成に係る所得要件の撤廃  
・助成対象を中学生までに拡大

○カード提示で窓口負担なしへ

②医療機関等窓口における支払手続きの簡略化

・医療機関窓口で受給者証(カード)提示により、医療保険適用分窓口負担を要さない方式を導入  
・町窓口における「子育て応援券」交付は廃止し、医療費助成に係る手続きを簡略化

## 人事

・えりも町人権擁護委員の選任  
新任 北村 和也

・えりも町農業委員の選任  
新任 藤井 隆宏

東洋 能登 浩

大和 沼館 信夫

歌別 佐々木克也

歌別 寺井 文秀

東洋 高橋 祐之

本町 中村 幸子

大和 石川 昭彦

東洋 神田 隆人

現委員の任期満了によるもの

## 第1回臨時会

## 人事

・えりも町公平委員の選任

大和 木村 徳美

新任

# 問 介護保険料の見直しは

## 答 保険料月額 抑制を目指したい

答 保健福祉課長

①第9期保険料の算

②来期の見直しに向け、支払準備基金の状況は、基金取り崩しだけでは保険料の抑制が難しい場合、一般会計からの繰り入れも検討すべきと思うが。

高額な介護保険料の負担軽減を



①来年度の介護保険料見直し（負担軽減）について、どの様な考えを持っているか。  
②来期の見直しに向け、支払準備基金の状況は、基金取り崩しだけでは保険料の抑制が難しい場合、一般会計からの繰り入れも検討すべきと思うが。

# 一 般 質 問

一般質問は、議員にとって、住民から重大な関心と期待を持たれる大事な議員活動の場です。町政全般にわたって執行機関に疑問点をただし、所信の表明を求め、議員自らの政策提言を行い政治姿勢を明らかにするものです。

問 竹内 議員



竹内孝文議員

介護保険料の見直し

が来年度に迫っている。年金生活者は、年金受給額にほぼ増減はなく、昨今の物価高に加え、6月からの電気料金値上げなど、3年前と比較し生活実態は実に厳しい状況にある。

①来年度の介護保険料見直し（負担軽減）について、どの様な考えを持っているか。  
②来期の見直しに向け、支払準備基金の状況は、基金取り崩しだけでは保険料の抑制が難しい場合、一般会計からの繰り入れも検討すべきと思うが。

定に当たっては、第一号被保険者負担割合の状況など保険料算定の各種条件を踏まえつつ、支払準備基金の取り崩しといった手法も含め、可能な限り基準月額保険料の抑制を目指して算定したい。  
なお、基金を一定額取り崩すことで、基準月額保険料の抑制が可能と考えている。  
②令和4年度末における基金残高は5千万円程である。

一般会計等からの繰り入れを前提とした保険料算定は、会計検査院から「負担の公平性を損なう恐れがある」と指摘があったことから、難しいと考える。

## 問 福祉センターの改修と新築のビジョンは

## 答 耐用年数を視野に耐震化を含めた改築を検討



嵯峨直樹議員

問 嵯峨 議員

福祉センターの今後の方向性は、前回議会の答弁で耐用年数を迎える17年後を目途に検討を進めるとあった。その間、新規に施設

建設の計画がないと考えるとよいのか。  
現在の施設では階段の上り下りが困難な方は大変苦労している。ぜひ、バリアフリーの施設建設を考えていただきたい。町はどのようなビジョンを持っているか。

答 社会教育課長

これまで計画的に改修を行っている。建設計画は、耐震化を含めた改築も検討していく。バリアフリーの施設建設は、現在の施設では耐震化に多額の費用が掛かるため大きな課題がある。階段の上り下りが困難な方は、これまでどおり職員が声をかけ、支援助け寄り添うとともに、階段付近に介助する旨を掲示し、催事案内にも記述するなどの見える化をし、きめ細やかな対応に心がけていく。

新築のビジョンは、

耐用年数があると17年であることを視野に入れ、町社会教育中期計画や町総合計画で方向性を示していく。

再質問 嵯峨議員

照明などの不具合もあるが。

答 社会教育課長

部分改修では間に合わないところも出てくる。中期財政計画等、長期的視野に立つて出来る範囲で進めていく。

階段前に掲示されている「介助する」旨の案内版





橋本維広議員

# 保育士募集の条件緩和を

問

橋本 議員

当町の保育所は保育士不足により、保育が受けられないケースが出ています。対策が急務と考えるが、  
①保育士応募資格に40歳以下の年齢制限があるが、50歳以下に緩和できないか。

答

# 募集条件を緩和し特例の活用も検討

また、町内で保育士資格を持つている方やこれから保育士を目指す方がいないかを調査してはどうか。

②国は保育士不足解消のため、配置基準の緩和を行っている。

平成28年施行の「保育所における保育士配置の特例」では、子育て支援員修了者や保育士と近接する職種の幼稚園・小学校・養護教諭が活用可能で、特例を利用してはどうか。

答 町民生活課長

中央保育所の0歳児及び2歳児のクラスで保育士不足により、待機児童が出ていることは事実であり、大変心を痛めている。今後、手厚い人材確保事業を充実させていくことが必要と考えている。

①現状を鑑み、年齢要件を緩和したい。資格保有者は一定数把握し、実際に声掛け

をしているが、家庭の事情等により難しいとのことである。

保育士を目指す方の調査は、人材を確保する上で候補者を把握することは有効であると考え、実施を検討したい。

②特例は、待機児童を解消し、受け皿拡大が一段落するまでの緊急・時限的な対応として幼稚園教諭等を保育士に代えて活用可能である。

幼稚園教諭は3歳児以上、小学校教諭は5歳児を中心に保育することが望ましいなどの推奨要件があるが、実施に向け、北海道と調整していきたい。



保育士が不足している「中央保育所」

問 橋本 議員

最近、道内で外国資本による土地売買が見受けられる。

近隣では、十勝地方の幌尻岳のふもとを、外国人と見られる関係

# 外国資本による町内の土地売買は

# 売買の事例はないが注視する

者が買い取っており、管内でも同様の事例が発生していると感じ、不安を感じている。

道は、外国資本による道内の水源地買収を監視するため、平成24年4月、水資源保全条例を施行した。

①水資源保全地域の登録や土地売買を監視、規制することが必要ではないか。

②当町に外国人・外国資本からの国土利用計画法の届出はあるか。

答 企画課長

①町内の水源は、すべて道有林の水源涵養等保安林で、海外資本による土地の取得はこれまでない。

土地売買の監視は、1万平方メートル以上の面積は、国土利用計

当町の豊かな水資源を守つていくために、土地売買の監視が引き続き必要ではないか



画法で届出が義務付けられていることから、町で何らかの対応をする必要がある事案が発生した場合には、その都度、適切に対応できるよう努めたいと考えている。  
②過去に当町に提出された届出の中に、外国人や外国資本が契約当事者となっているものはない。



中野公浩議員

# オオズワイガニを ふるさと納税の返礼品に

問

中野議員

答

## 加工施設やマンパワーの 問題があり難しい

させるために、現在、大量に獲れているオオズワイガニを返礼品にするよう漁協に協力を依頼することが必要ではないか。

答 産業振興課長

えりも漁協のふるさと納税の取扱いは、ツブ類や昆布などがあるが、一昨年の赤潮以降、ツブ類が用意できないため、昆布がメインの返礼品となっている。現在、えりも町においてオオズワイガニが大量に獲れて、テレビや新聞で報道され、漁協直売所は連日力二を求める人で賑わっている。

当町のふるさと納税は、昨年度4億円台と多い時の半分以下となった。ふるさと納税を回復

町では漁協に対しオオズワイガニをふるさと納税の返礼品に活用できないかお願しているが、現状では漁協の加工施設やマンパワー

に限界があり難しいとのことである。漁協には、オオズワイガニだけではなく他の魚種を含めて、協力を依頼しており、前向きに検討したいと返答を得ている。

答 大西町長

漁協も色々な協力をしてくれている。ふるさと納税は当町の大きな財源であるので、少しでも返礼品を増やしていければという思いで、担当課で町内の企業に足を運んで協力依頼をしている。



報道等により連日大賑わいだっただ漁協の直売所

問 中野議員

人口減少が加速している中、これを防ぐために地域おこし協力隊を増員してはどうか。

現在、町の協力隊は4名で、3名が映画製作、1名が観光に携わっている。

協力隊の多い町では、東川町が64名、厚真町が34名、ニセコ町が28名である。

当町も将来、昆布漁などの漁業や農業に携わる人を募集していかねければ、従事者の減少は止められないと思うが。

答 企画課長

地域おこし協力隊制度は、平成21年度から開始され、任期は概ね1年以上3年以下となっている。

町内では4名の協力隊が活動しており、今後様々な面で活用を検討していきたいと考えている。

以前から活動している協力隊からは、任期終了後も町に住み続けたいとの話もあり、引き続き受け入れ環境を整え、定住、定着を進める取り組みも検討していきたい。

答 産業振興課長

道内でも協力隊を活用し、新規の農業や漁

業の就業者の活用をしている自治体はあるが、どのように定住に結び付けるかが大きな課題となっている。

一つの例として、昆布漁業、沖合漁業、定置網漁業などを結びつけ、周年で収入を得ることが定住につながるものと考えられる。

一次産業においても事業者の高齢化が進み、今後、急激に事業者が減少するのは目に見えている現状では、新規就業者の確保は喫緊の課題と認識している。



コンポートクルーズ等で活躍する協力隊の鈴木亜室さん



高松亮裕議員

## 問 帯広市への通院等に 新たな交通手段を

## 答 バス路線があるので 基本的に実施できない

問 高松 議員

帯広市の医療機関で定期的に治療を受ける町民が相当数存在し、多くはバスやタクシーではなく、自家用車を

自分で運転し、あるいは家族等に頼んで通院している。  
「自家用有償旅客運送」という制度を活用し、週に数回、乗り合わせで送迎する新たな交通手段を検討するため、町民の需要を調査し、実証運行に向けて協議してほしい。

答 企画課長

多くの町民が通院や買い物で帯広へ出かけており、ほとんどは自家用車を利用していると認識している。

この制度は、交通空白地の移動手段を確保する手段として利用されているもので、既存の公共交通がないことが前提で、民間のバス

路線が運行されている帯広への交通手段として、同制度を利用することは基本的にはできないと考える。  
地域住民の足を確保することは重要だが、大きな負担も伴うので、現在策定中の「日高地域公共交通計画」で協議検討していきたい。

再質問 高松議員

既存の公共交通があっても、帯広への通院に住民が利用していただければ「十分な移動サービスが提供されない地域」に該当し、「既存の公共交通がないこと」は前提とはならず、同制度を活用することは可能であると考えているので再考願いたい。

※「自家用有償旅客運送」とは

バスやタクシーのみでは十分な移動サービスが提供されない地域等で、住民等の日常生活における移動手段を確保するため、国の登録を受けた市町村や非営利団体等が自家用車を用いて有償で運送することができ、町の車両やマイカーを住民が運転し送迎することも可能で二種免許は必要ない。

問 高松 議員

## 問 昆布おかまわり不足 アンケートの結果と今後は

## 答 延べ不足人数427人 各施設へ求人情報の配布も検討

5月に実施した昆布おかまわりに関するアンケート調査の結果を知らせてほしい。  
今年の昆布採取が間に迫る中、少しでもおかまわり不足を解消するために、町内や近

隣町の労働力をフル活用することが必要である。

各昆布採取業者から速やかに求人情報を提出してもらい、「求人一覧」と「おかまわり不足解消のためのお願いの二つの文書を役場、郵便局、信用金庫、小中高校、自衛隊、魚釣りなどへ配布し、あらゆる可能性を探るべきと考えるが実行性は。

答 産業振興課長

アンケートの調査対象者は427人で「おかまわりが足りない」と回答した人は197人であった。

延べ不足人数は427人となり相当数のおかまわりが不足している実態がわかった。

まずは、町のホームページや広報紙を利用して、おかまわりの求人情報を周知し、各施設への配布も検討したい。

不足者数

不足状況	回答数	延べ不足数
1人足りない	35人	35人
2人足りない	97人	194人
3人足りない	56人	168人
4人足りない	6人	24人
6人足りない	1人	6人
無回答	2人	0人
合計	197人	427人



7月8日、昆布採り解禁の歌別地区。未解禁の地区から多くの応援があつたが・・・

# 7月4日：北海道町村議会議員研修会

令和5年度の「北海道町村議会議員研修会」が、7月4日に札幌コンベンションセンター（白石区東札幌）で開催され、当町の議員10名をはじめ、道内144町村から1500名余りの議員と事務局職員が参加しました。

今回の研修では、ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長・五百旗頭真（いおきまこと）さんの「ウクライナ危機後の世界と日本」、政治ジャーナリスト・田崎史郎さんの「日本政治の舞台裏」の2つの講演を聴きました。

五百旗頭真さんは、ロシアがどのような歴史的背景でウクライナ侵攻に至り、何を目的としているのか、ロシアと中国の連動はあるのか、台湾や尖閣への影響、国際的連携の重要性など、幅広い視点から今後も続く戦況を分析し、今後の日本の国際的役割を熱く語られました。

次に、政治部記者からテレビの特別解説員を経て現在、政治ジャーナリストの田崎史郎さんは、

どのように政治家との人脈を広げていったか、岸田総理大臣とはどんな政治家なのか、衆議院の解散時期はいつなのかなど、政治記者歴44年の経験をもち、各政党、政治家の特徴や本質を実際のエピソードなども交えて話し、大変興味深い内容の講演になりました。

どちらの講演も非常にわかりやすく、様々な視点からの情報を得ることができました。

今回得た内容を今後の活動や学びに活かしていきたいと思える有意義な研修になったと思います。

(天場)



# 7月5日：行政視察 日高町「認定こども園 富川ひばり幼稚園」

7月5日、沙流郡日高町富川の幼保連携認定こども園「富川ひばり幼稚園」を視察した。

同幼稚園は、学校法人富川学園が運営する「富川ひばり幼稚園」と「町立富川二葉保育所」を統合し、幼稚園の教育機能や保育所の長時間保育の機能を併せ持つ「幼保連携型」の認定こども園として本年4月1日より運営されている。建設に至る説明を受け、あらかじめ提出していた質問に沿って質疑を行った。

## Q 統合計画段階で問題点はなかったか。

A 両施設の建替時期のタイミングが一致していたため、問題はなかった。

## Q 町から幼稚園に対して運営費の上乗せはあるか。

A 副食費（4,500円）を徴収しているが、それで賄いきれなかった分について町単費で補助をしている。

## Q 統合後、保育所職員が幼稚園に勤務をする例はあったか。その場合職員の身分はそのままか。待遇面の変更はあったか。

A 保育所の正職員は他の町立保育所に異動し、会計年度任用職員であった6名が幼稚園の契約職員となって勤務している。基本給は若干下がったが、他の手当で補った。

## Q 初任給は町の保育士と比べ差があるか。

A 基本給に大きな差はないが、昇給に差があるため、生涯年収には大きな開きが出る。

## Q 統合により、保育所部分と幼稚園部分で、子供たちに変化は見られたか。

A 環境変化に不安になっている子供はいたが、2か月以内に解消した。

## Q 今後の課題は

A 保護者の就労状況の変更などにより幼稚園から保育部への預かり時間の変更があった時、届出の変更手続きの仕方等の説明が難しい。



玄関に設置してあるタブレット端末。「レジャーキッズ」というアプリを使用し、出欠・バス利用・お知らせ・保育日誌等の効率化を図り、職員の負担が大幅に軽減した。

# 全 員 協 議 会

※紙面の都合により  
抜粋して掲載

## 物価上昇等に係る事業者等支援事業

ロシアのウクライナ侵略に端を発した世界的な原材料価格の高騰や円安の影響による燃油・電気料等の価格上昇に対応するため、町内の事業者に対し、それぞれの区分により助成を行い支援する。

### <支援内容>

(1) 農業者に対する支援	20万円
(2) 林業者に対する支援	20万円
(3) 漁業者に対する支援	
ア 昆布採取業者	3万円
イ アのうち令和5年に採り昆布操業者	2万円
ウ 3トン未満の漁船漁業者	5万円
エ 3トン以上5トン未満の漁船漁業者	10万円
オ 5トン以上の漁船漁業者	20万円
(4) 商工事業者に対する支援	
ア 小売業、卸売業、不動産業、生活関連等	5万円
イ 個人の製造業・建設業、飲食業	8万円
ウ 個人の運送業・医療・福祉	10万円
エ 法人の建設業・製造業	15万円
オ 法人の運送業・医療・福祉、宿泊業	20万円

### <議員の意見>

議員：農業者に対する支援で、規模にかかわらず同一金額というのはおかしい。漁業者支援と同様、規模別等で支援すべきと思うが。

答弁：対応を検討する。

## ブルーカーボン調査の実施

### <調査の概要>

当町の地域資源であるコンブ及びコンブ漁場を活用し、北海道開発局、寒地土木研究所、北海道大学及びえりも漁協と連携して、調査検討会を設置し、ブルーカーボンによる二酸化炭素吸収量を調査する。

### <役割分担>

#### ・えりも町及びえりも漁協

- ①潜水士によるコンブの生育状況調査
- ②所有ドローンによるコンブ漁場の空中撮影

#### ・北海道開発局及び寒地土木研究所

CO<sub>2</sub>吸収の調査・推計方法に関する技術的な助言。

#### ・北海道大学大学院

AIを用いた画像処理による効率的な海藻面積の把握研究。

### <町の考え方>

この調査の解析等を行い、将来の二酸化炭素排出権取引の可能性を検討していきたい。

※ブルーカーボンとは：海洋生態系（海藻や海草等）に吸収される二酸化炭素

## JR東日本エネルギー開発（株）の風力発電事業計画

北電との協議により、高圧線への接続が可能となったことから、以前の計画から一部規模を縮小して実施したい旨の申し出があり、経産省への申請に必要な町有地の賃借証明等、町への協力依頼があった。

### <主な計画案>

事業者：JR東日本エネルギー開発株式会社  
 名称：（仮称）えりも町風力発電事業  
 総出力：107,500kw～152,500 kw  
 風車基数：最大35基（出力により18基～25基程度）



風車の建設が計画されている広大な敷地の旧肉牛牧場



# 所管事務調査

総務文教常任委員会	委員長 橋本維広
副委員長 神田 修	委員 川村一治
竹内孝文 大場文裕	
産業民生常任委員会	委員長 高松亮裕
副委員長 中野公浩	委員 成田一人
上野陽司 嵯峨直樹	
議長 石川昭彦	

調査日 令和5年5月30日(火)

## G I G Aスクールの現状について

G I G Aスクール構想は、I C T（情報通信技術）を取り入れた新たな教育環境を実現することにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出そうとするものである。

当町では小中学校は令和3年度から、高校は令和4年度から端末の整備、活用が開始されたが、小中学校の運用開始から2年を経過し、児童生徒の端末の利用状況と今後の課題を確認するため、えりも小学校の授業を参観し、校長や端末を扱う教員から話を伺った。

この日、参観した全学年の授業は、最初の30分は通常の教科学習、後半15分はタブレット端末を使って行われた。普段から授業時間のすべてを使って端末操作を行うことはなく、従来の黒板とノートを利用した授業が基本とのことである。入学して2か月の小学校1年生でも端末の操作に戸惑う様子は見られず、難しさは感じられなかった。

今回訪問したえりも小学校と同じく、町内の各学校でも同じように運用されていると思うが、同じレベルを継続し、児童生徒の学習効果が一層向上するよう役立ててほしいと望むものである。



端末を使用している授業風景

## 優良繁殖雌牛導入貸付事業について

本事業は、優良な繁殖雌牛を導入するための貸付を行い、農業経営の振興と安定を図ることを目的に平成29年度より開始された。貸付対象者は、新規就農及び経営規模の拡大を図る者等、貸付対象牛は、市場で取引された和牛雌牛で、1戸当たり15頭以内などの制限が設けられている。

しかし、平成25年度より発生したヨーネ病が深刻な広がりを見せ、飼養頭数が減少し、患畜となった牛が淘汰されたことで、繁殖頭数の減少が続いている。

このような状況から、優良な繁殖雌牛を導入するという当初の目的に代えて、飼養頭数を維持する方向に検討を進めているところである。本年度はヨーネ病の全頭検査の実施年のため感染拡大が懸念されており、農業経営の安定化に向けて、飼養衛生管理を徹底するよう努めてほしい。



繁殖牛の増加が当面の課題

## 映画「北の流氷」(仮題)の進捗状況について

映画「北の流氷」は、えりも岬の植樹によって森と海が生き返った物語が題材になるとして、実現に向けて4町が中心となって取り組むことになり、本年秋のクランクインが予定されていた。映画の製作費は3億～3億5千万円、宣伝配給等に1億円を想定しており、総製作費4億～4億5千万円ほどとなる見込みである。しかし、予定していた本年のクランクインは、予算内に収まるように脚本を修正する必要がある等で難しいという判断に至っていると町担当者から説明を受けた。

本年はロケハン、俳優が登場しないシーンの実景撮影を行い、来年より俳優を入れたシーンの撮影に入る予定で、劇場公開は令和7年为目标とのことであった。予定が延びる説明を受けたのは残念だが、クランクインが長引けば町民の興味が薄れていくので、少しずつでも情報を発信するなど、映画に向けて町民が応援したいという気持ちを持ち続けられるような取り組みを期待する。



映画「北の流氷」を応援する会が制作した応援バッチ

# この人に聞く

地域おこし協力隊

ふたば いっこう  
二場 一光さん (27)



▼経歴は

神奈川県横浜市で生まれ、4歳から高校までは千葉市幕張で過ごしました。

大学満足度ランキングで高評価の北海道大学を目指すと叶わず、帯広畜産大学へ進学。大学3年で単位を取り終え、語学留学の資金を貯めるため、1年間休学してトマムリゾートのステーキ屋で働きました。

100万円以上を貯め、フィリピン語学学校で3か月間学び、その後カナダ留学を考えましたが、コロナ禍で断念し帰国しました。

## 議会の動き

5月19日	日高町村議会議長会役員会・定期総会（議長）
5月23日	広報広聴常任委員会
5月30日	二常任委員会合同所管事務調査議会運営委員会
6月 9日	全員協議会
6月10日	札幌えりも会
6月14日	議会運営委員会
6月15日	北海道町村議長会定期総会・研修会（議長）
6月21日	第2回定例会 全員協議会 広報広聴常任委員会
7月4～5日	全道議員研修 ・行政視察
7月 7日	第3回臨時会 全員協議会
7月11日	広報広聴常任委員会
7月18日	広報広聴常任委員会
7月19日	町村議会新任議員研修会
7月25日	第4回臨時会

▼えりも町地域おこし協力隊に応募した理由は

その後、東京のクラウドキッチン（テイクアウト専門店）で1年、北海道に戻り飲食店で2年働きました。大学時代からテレビ局で映像関係の仕事をしたと就職活動をしていましたが、コロナ禍もあり、なかなか就職できずにいました。

そんなとき、えりも町で映画製作の求人を見つけて応募した。応募したことを知り、応募しました。

▼映画好きと聞きましたが

1番好きなのは、ベン・ステイラー監督・主演の「LIFE」という、地味な中年男性が世界中を旅する様子をファンタジックに描いた作品ですが、興味のある人は一度観て下さい。

▼現在の活動は

事業所を訪問して「北の流水」（仮題）のポスターを貼らせてもらったり、エキストラ募集の要項づくりをしています。また、私的には陸上経験を活かして、小学生に中・長距離走の指導を週3回行っています。



小学生に陸上競技の指導をする二場さん

▼えりも町民へ一言

初めてコンブの手伝いを経験しました。これから多くの町民の方と交わりながら、じっくりとえりも町のことを知り、映画製作やその後の観光振興のために努力していきたいと思っています。ですのでよろしく願います。（取材 高松）

# 議員雑感

今年新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行されたことにより、各種行事がほぼ制限なく行われるようになりました。

今年の「えりもの灯台まつり」は、規模が縮小され、メインは花火大会のみでしたが、本年は「歌謡ショー」も行われるということで、コロナ禍前のにぎやかな祭りになることを期待するものです。

今年も屋台等が出店されると思いますが、やはり今話題の「オオズワイガニ」のメニューが提供されるのかも興味があるところです。

何より、通常に戻る「えりもの灯台まつり」、天気が良いことを望みます。

（竹内）

**広報広聴常任委員会**  
委員長 竹内 孝文  
副委員長 上野 陽司  
委員 高松 亮裕  
中野 公浩  
嵯峨 直樹  
大場 文裕